効果的な施策を展開するための考え方の点検ツール

～地域包括ケアシステムの深化・推進に向けて～

点検の実施手順や記入例の紹介

2023年8月

㈱日本総合研究所

Ver.1.1

点検ツールのねらい

なぜいま、地域包括ケアシステムの「機能性の点検」なのか？

1 地域のビジョンの共有と分野横断的・統合的なマネジメントへ

地域のビジョンや目標を改めて検討する

- これまで、高齢者・介護部局が中心となって、地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みが行われてきました。しかし、これからの少子高齢化のさらなる進展や地域ごとの事情も踏まえると、各分野・領域を超えて共有できるよう、全体最適化の観点から機能性を高める取り組みが不可欠です。
- もとより地域包括ケアシステムを構成する社会資源や体制等は、それらが相互に連携することで大きな効果が期待されるものです。地域包括ケアシステム構築の節目となる2025年を迎えようとする現在、「わがまちの地域包括ケアシステムとは」を改めて見直し、地域のビジョンや目標を再度明確化することが大切です。

2 資源や事業の整備から、機能性の発揮への転換

全ての社会資源や体制等を最適化し、効率的に繋ぐことが重要

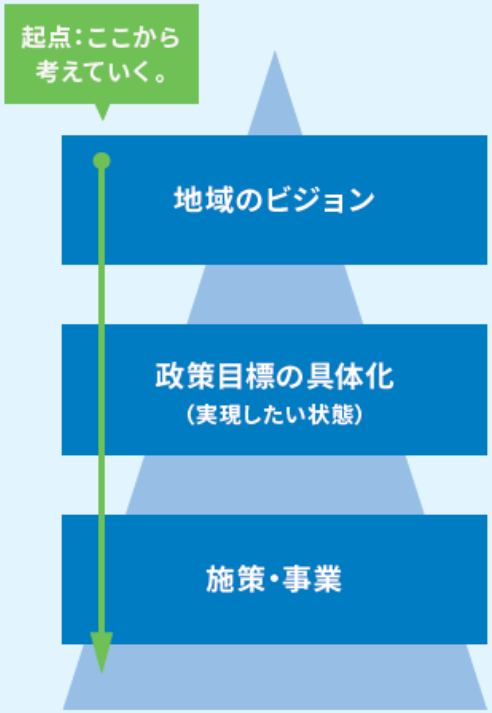
- 社会資源の整備のみならず、既に地域にある社会資源や体制を工夫して改善し、その機能性を高めることこそが、地域づくりの基本的な方向となります。このため、『保険者』としてだけではなく、全庁的な体制を含めた、『自治体』としての状況の点検・評価が重要です。
- したがって、地域の総合計画等との整合性を図りながら、「ビジョン」を起点に、関係部局とも連携の上、政策・施策・事業のあり方を考え、ひとつひとつの取り組みの成果が上位の目標にどのように貢献しているか、さらに効果的なものとするにはどのような工夫があり得るかを振り返る必要があります。
- 本ツールは、上位目標に照らして施策・事業の位置づけを振り返り、施策・事業を「機能性（＝目標とすべき状態の実現に資するように機能しているか）」に着目して見直す視点を提供します。

Copyright (C) 2023 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

なぜいま、地域包括ケアシステムの「機能性の点検」なのか？

「ビジョン」を起点に施策・事業のあり方を考え、
ひとつひとつの取組の成果が上位の目標にどのように貢献したかを振り返る。

「機能」面で目標とすべき状態の実現に資しているかを分解して点検する



高齢者個人が尊厳を保持し、かつ個人の能力に応じた自立した日常生活の維持・継続できる社会の実現。
地域の総合計画・総合戦略等とも連動して検討し、表現する。

総合計画レベル

地域の理想像（ビジョンの実現）に近づくために、政策目標の具体化と、その機能、効果について点検する。

介護保険事業計画レベル

政策目標の実現に向けて、個々の施策が連動しつつ、十分に機能しているか（機能性が発揮されているか）を体系的に点検。評価に当たっては、関連する参考指標も用いるものとする。

施策・予算事業レベル

Copyright (C) 2023 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

『地域包括ケアシステムの構築状況の点検ツール』の特徴

目標に対して手段が合っているか、手段が十分な効果をあげているかを、実施できていない施策・事業を洗い出すチェックリストの考え方ではなく、機能性の観点で点検するもの

- この点検ツールは、各市町村が、地域包括ケアシステムの構築という「目標」の達成に向けて、介護・福祉分野やそれ以外の資源を活用した施策という「手段」が十分な効果をあげているかを、できる限り客観的な指標も参照しつつ点検するためのツールです。
- 地域資源は有限であることから、この点検ツールは、評価指標の全ての項目が満たされているかを見るためのものとして設計したものではありません。同様に、介護保険分野の資源の整備状況の多寡の確認を直接の目的としたものでもありません。
- 本ツールは、「地域のビジョン」（＝高齢者個人が尊厳を保持し、かつ個人の能力に応じた自立した日常生活の維持・継続できる社会の実現）という「目標」の実現に向けて、その下位に位置付けられた施策や事業という「手段」による取組が十分に成果を挙げ、貢献しているかを振り返り、施策や事業について取り組むべき課題を明らかにしたり、優先順位を検討する際の視点を提供することを目的としています。
- 点検の結果、成果が出ていない、成果に貢献しない施策等は、優先的に見直すことが必要です。同じ成果を挙げることを目的とした手段の中で、より効率性の高い取組に重点化することも考えられます。
- 本ツールは、住まい・医療・介護・予防・生活支援といった個別の施策に位置付けられた事業取組が十分に連携され、「機能性」（＝目標とすべき状態の実現に資するように機能しているか）の観点から、施策の展開をより効果的なものとするための考え方の点検に役立てて頂けるものとしてとりまとめたものです。

Copyright (C) 2023 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

点検の枠組みと視点

本ツールが前提とする点検の枠組みと視点は以下の通り。

地域のビジョン
（理想の姿）

ビジョンの実現に向けた政策目標の具体化と、その機能、効果についての点検※他分野の政策との連動の視点を含む

個々の施策が連動しつつ、十分に機能しているかを点検
※それぞれの項目で関連した参考指標を用いて、振り返る

〈理想の姿〉
高齢者個人が尊厳を保持し、かつ個人の能力に応じた自立した日常生活の維持・継続できる社会の実現

政策レベルの視点
（大項目）

住民が希望する、住み慣れた地域・居宅での生活を継続できている

（中項目）

要介護状態等となることの予防等を図りつつ、住民や多様な主体が関わって地域の資源が整備・維持・活用されている

目指す姿の実現に向けて政策が展開されているか？

高齢者や家族が必要な医療・介護を利用しながら望む場所で生活を継続している

各施策・事業は政策目標の実現を意識しているか？
政策目標が目指す姿を具体的に共有できているか？

施策レベルの視点

- 多くの住民が自分の強みや興味・関心に沿った社会参加の機会を得て、結果的に健康増進や介護予防につながっている
- 高齢者がリハビリテーション等を活用しながら出来る限り心身機能や生活行為の回復と維持を図っている
- 高齢者を含む地域住民が、認知症の視点も踏まえた地域共生社会の実現を進め、認知症の人の発信や意思決定・権利擁護が尊重されていると感じている
- 認知症があっても、その状況に応じた適時・適切な医療・ケア・介護サービスを利用でき、生活を継続できている
- 高齢者が、急変時を含め、入退院があっても切れ目のないケアを利用でき、生活を継続している
- 本人の希望に応じた日常療養から看取りまでの体制を整え、提供できている
- 高齢期の住まいや移動を支える資源の整備・活用に向けた取り組みが実施されている
- 高齢者や家族が、望む暮らしに合った介護サービスや生活支援を利用でき、生活を継続している

規範的統合

庁内外の連携は十分に機能しているか？

自治体を中心に、地域包括支援センターや地域の関係機関が連携し、分野横断的なマネジメントが実施できている

組織の機能を高める各領域共通の視点

- 地域のビジョン及び各施策が目指す姿の実現のために多職種が連携して取り組んでいる
- 庁内外の関係部局・機関で地域のビジョン及び各施策が目指す姿や課題を具体的に共有して事業等を推進している
- 庁内外の関係者が課題や成果を客観的に共有できるよう情報を収集・活用できている

地域の持続性の観点からの点検
（地域のビジョンの持続性を高める観点での参考となる指標）

医療・介護をはじめとするサービスの提供が持続可能な状態である

目指す地域づくりに向け、全庁的に取り組めているか？

Copyright (C) 2023 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

本ツールによる点検の流れ

本ツールを利用した点検の流れは以下の通り。
点検ツール本体は、以下の流れに沿って、担当者や庁内関係者がそれぞれ検討結果を記入・共有できるような形式となっている。

1 視点に関する現在の取り組みの洗い出し
- この視点に関する現在実施している取り組みを洗い出す

2 視点に関連した目指す姿の振り返り
- この視点に関して、既存の（上位）計画で位置付けられている目指す姿を振り返る

3 目指す姿の実現状況の仮評価
- 目指す姿の実現に向けた、現時点での実現状況を「仮評価」する

  - これまでの結果、地域の強み
  - 実現できていない要因の検討

4 解決すべき要因の検討（仮の絞り込み）
- 目指す姿に向けてさらに推進するうえで解決すべき要因（仮説）を検討し、列記する

5 知りたいことの洗い出し、利用可能な情報の収集・整理
- まずは知りたいことを洗い出し、さらに利用可能な情報を収集・整理

6 確認結果を踏まえた今後の取り組みの検討
- 上記の確認結果を踏まえ、施策の展開をより効果的なものとするための工夫や見直しをまとめる

  - 取り組みをさらに良くするための工夫
    （事業の組み立ての見直し、事業実施方法の工夫など）
  - 庁内連携や情報の収集・活用など体制等の改善方策

関係者とともに適宜、3～5を繰り返す

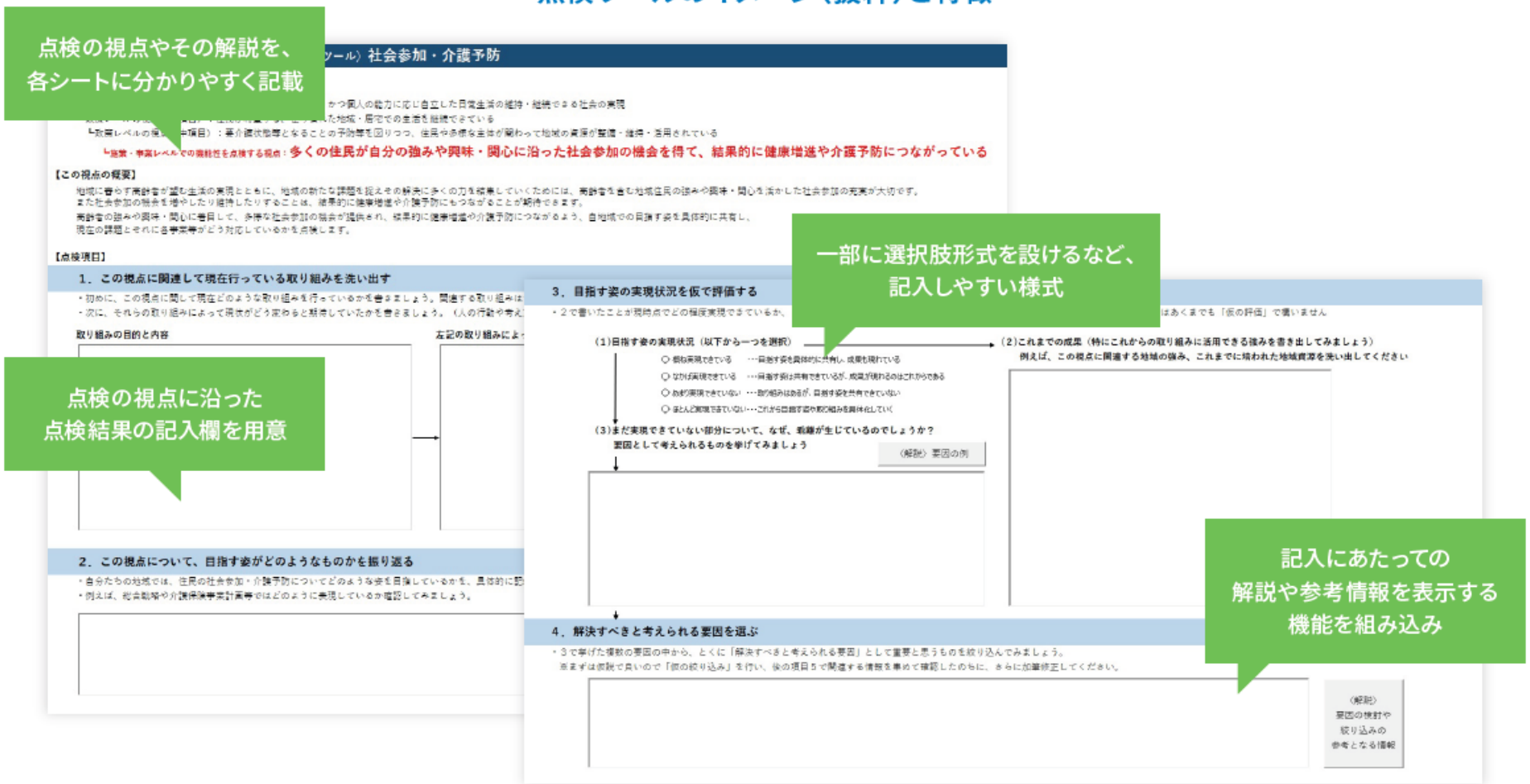
➡ **次の施策の検討に反映・活用**

Copyright (C) 2023 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

点検ツール　イメージ

点検ツールは、下記のように、各自治体での点検作業に際して、それぞれ入力・編集できるような形式（電子ファイル）で提供。
担当者だけでなく、庁内の関係者で情報を共有しながら活用が可能。

点検ツールのイメージ（抜粋）と特徴



Copyright (C) 2023 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

本ツールの活用メリット

本ツールを活用するメリット

- これまでも事業レベルの評価は行われてきました。一方で、施策・事業ごとの評価を意識しすぎるあまり、縦割りに陥ってしまう難しさもあります。
- 本ツールを活用することで地域のビジョンに照らして施策が何を目指していて関連する事業等がどのように位置づけているのかを点検し、施策をより効果的に展開するために、今後どのような工夫や見直しが考えられるかを明らかにできます。
- また、点検ツール（様式）を活用することで、目指す姿や関連する現在の取り組み、今後の工夫などを庁内外の関係者とともに共有・検討しやすくすることができます。

本ツールを活用していただきたい場面

- 本ツールは、上位目標に照らして施策の位置づけを振り返り、より効果的に展開できるようなものとなっているかを点検するものです。
- したがって、これまでの施策を点検して新たな施策の展開を組み立てる場面で特にご活用いただくことを想定しています。

施策・事業の振り返りや新規立案でよくある悩み

普段担当する事業が、上位目標に照らしてどのように位置付けられるかを考えるのが難しい・・・

保険者機能指標などの結果をどう解釈して、次の施策・事業を組み立てれば良いか分からない・・・

本ツールの活用により

「そもそも何のため」の事業だったかを確認し、事業で解決すべき課題や目標、他の事業との連携の視点を得られる

「なぜ、何のために」新たな施策・事業を組み立てるのかを、理事者等に対して、体系的に説明できる視点を得られる

Copyright (C) 2023 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

参考ＨＰおよび既存動画のご紹介

■ **点検ツールに関する情報が集約されている「まとめページ」**

- 点検ツール本体（excel）や過去の説明会動画、活用の手引き等の情報をまとめています
https://www.jri.co.jp/service/special/content11/corner113/chk_tool/

■ **過去のセミナー動画**

- 2023年6月27日（火）開催セミナー
https://www.youtube.com/watch?v=XdfikQG_rSQ

- 2023年4月26日（水）開催セミナー
https://www.youtube.com/watch?v=rMhoBTmyZic

- 点検ツール書き方解説動画
https://www.youtube.com/watch?v=xiytmSEGxFU

- 点検ツール概要解説動画
https://www.youtube.com/watch?v=RbnDAyXZd4I

点検の意義について埼玉県立大学大学院の川越雅弘先生が丁寧に解説！

点検ツールを既に利用した自治体の様子を知りたい方にオススメ！

具体的なツールの記入方法について日本総研の齊木が解説！

点検ツールの概要を知りたい方はこちらの動画をご覧ください！

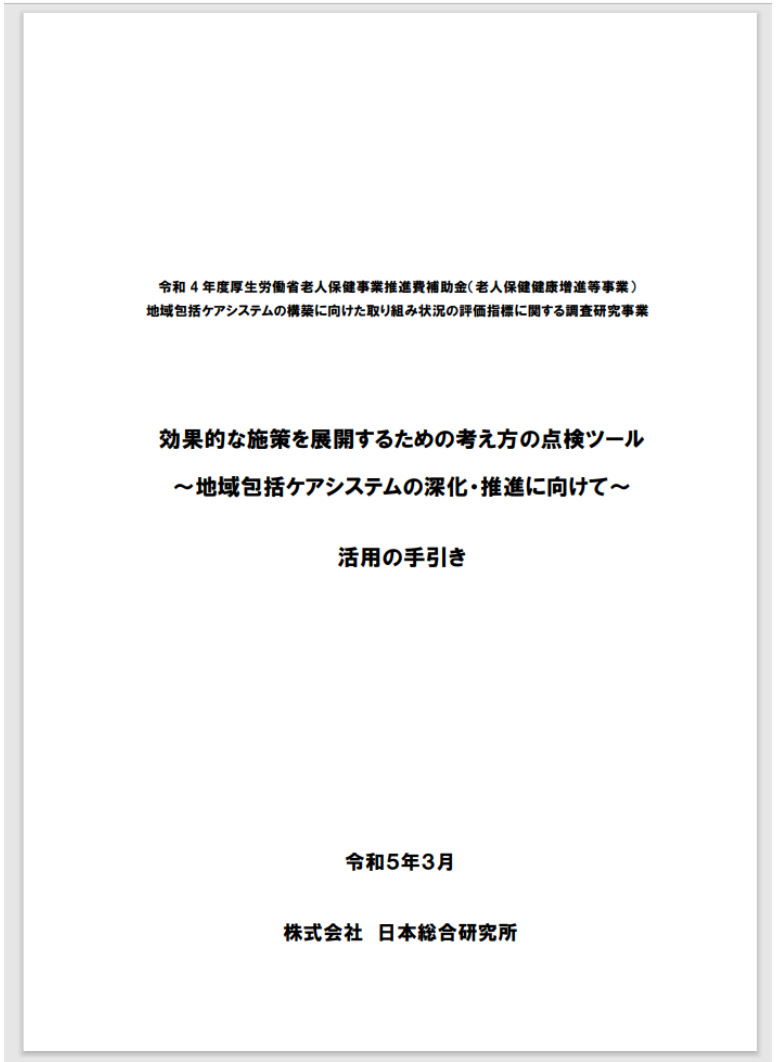
点検ツールの具体的な活用方法

「活用の手引き」のご紹介

ツールの利用にあたっては「活用の手引き」をご覧ください。

今回ご紹介する「ヒント」や「記入例」も、手引きに記載されています。

こちらからダウンロードください。
https://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/pdf/service/special/content11/corner113/katsuyonotebiki_230414.pdf



令和４年度厚生労働省老人保健事業推進費補助金（老人保健健康増進等事業）
地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組み状況の評価指標に関する調査研究事業

効果的な施策を展開するための考え方の点検ツール

～地域包括ケアシステムの深化・推進に向けて～

活用の手引き

令和5年3月

株式会社　日本総合研究所

Copyright (C) 2023 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

点検に手をつける、その前に・・・

本ツールを活用した点検では、特に以下の点にご留意ください。

- **あくまでも地域のビジョン（上位目標）の実現に照らして、施策や事業間の効果的な展開を考える**

- **ツールの枠を埋めることを目的とするのではなく、このツールを使った検討を通じて施策や事業間の連携について、庁内外の関係者と振り返ることを重視する**

- **振り返りで気づいた視点や課題を、次の計画の策定につなげる**
  具体的な施策や事業の組み立て方は、様々なマニュアルや手引きを参照する

Copyright (C) 2023 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

点検の実施手順（例）

モデル事業での実施結果を踏まえると、本ツールを活用した点検の実施手順（例）として、
以下のような進め方が考えられる。
なお、小規模な自治体では、本ツールが示す視点の一部だけを利用した点検も有効である。

1　点検の体制づくりとねらいの共有

- 誰が主担当となって、どのような体制で点検を実施するかを定める
- 関係課をまたがる検討体制とする場合は、事前準備として、自地域における地域包括ケアシステムの構築状況など、これまでの経緯や現状の認識を共有しておくことも有効である

▼

2　点検の枠組みと視点の確認

- 点検を実施するメンバーで、枠組みと点検の概要・関係性を確認する

▼

3　施策レベルの視点の点検

- 点検ツールを活用して、主担当を中心に、目指す姿およびその実現状況の仮評価を実施する
- 仮の評価であるこの段階から、可能な範囲で庁内外関係者も交えて検討を進めることも有効である
- 仮の現状分析結果にもとづき、知りたいことを洗い出し、利用可能な情報を収集・整理する
- 「地域包括ケアシステム見える化システム」等のデータに加え、庁内関係各課が独自に把握・収集している情報も活用する
- 収集した情報を整理・分析し、目指す姿の実現に向けて、さらに効果的に施策を展開していくうえで次に解決すべき要因を検討・検証する　※必要に応じて、追加の情報収集を実施する

▼

4　点検結果の総括

- 情報の分析・検討結果までを踏まえ、施策の展開をさらに効果的なものとしていくために、今後さらに取り組みうる工夫（事業の組み立ての見直し、事業運営方法の工夫等）を整理する
- 加えて、庁内連携や情報（データ）の活用など、複数の視点に横断的に関わるような庁内体制についての改善方策についても整理する

↓ 展開

次期計画等に向けた反映

- 検討結果を庁内の関係者や、次期計画策定の検討にも共有・報告し、次の施策等の検討に役立てる

Copyright (C) 2023 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

目線合わせのヒント

手引きp.29
参照

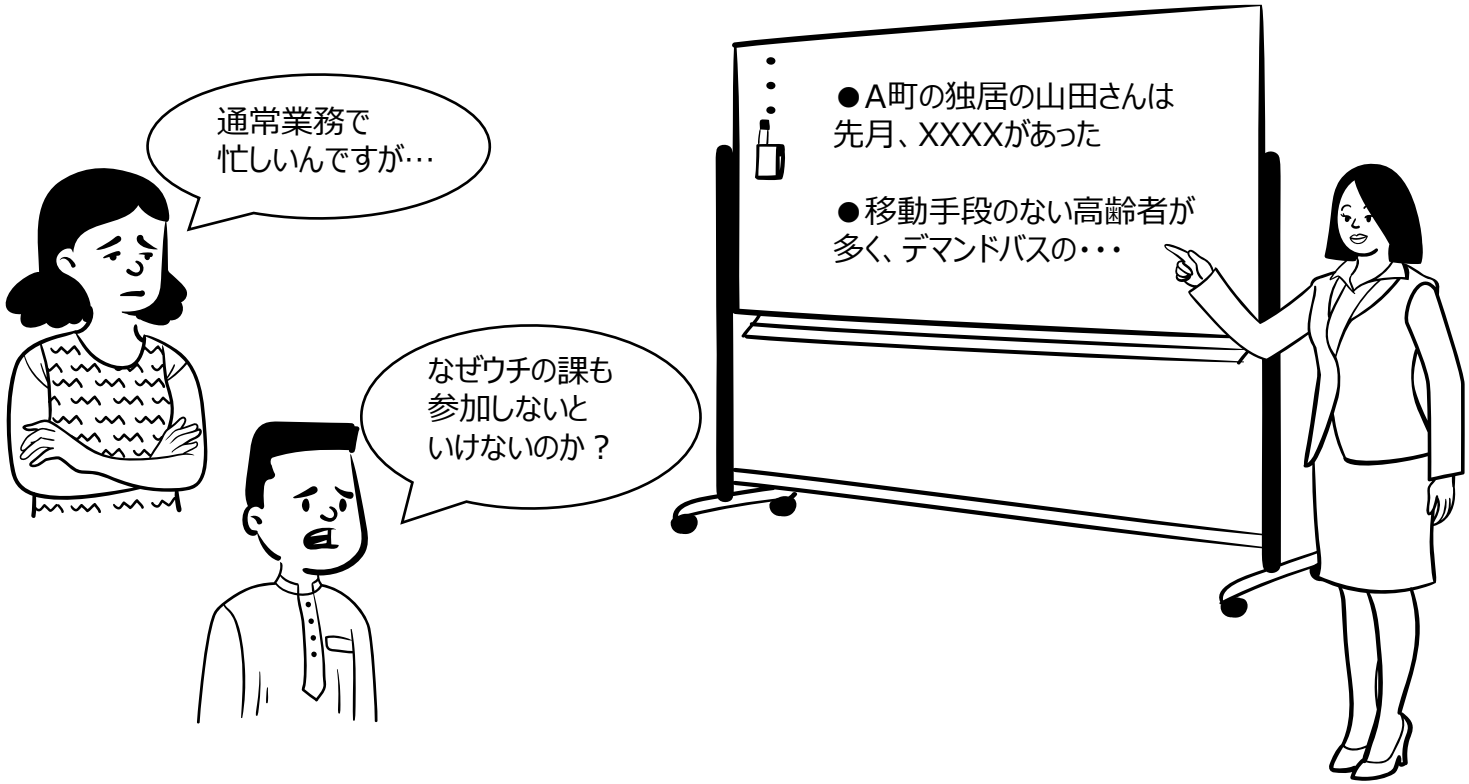
- **参加者が集まって、キックオフを行うことで目線を合わせることができる**
  - **解説動画を一緒に見る**
  - **「包括ケアとは何か？」「なぜこのタイミングで点検が必要なのか？」「この点検を通じて何をしようとしているのか」を理解してもらう**

Copyright (C) 2023 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

関係課を巻き込む際のヒント

手引きp.29
参照

- **困っている方の具体エピソードを共有する**
- **各課の関心事に引き寄せて説明する**



Copyright (C) 2023 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

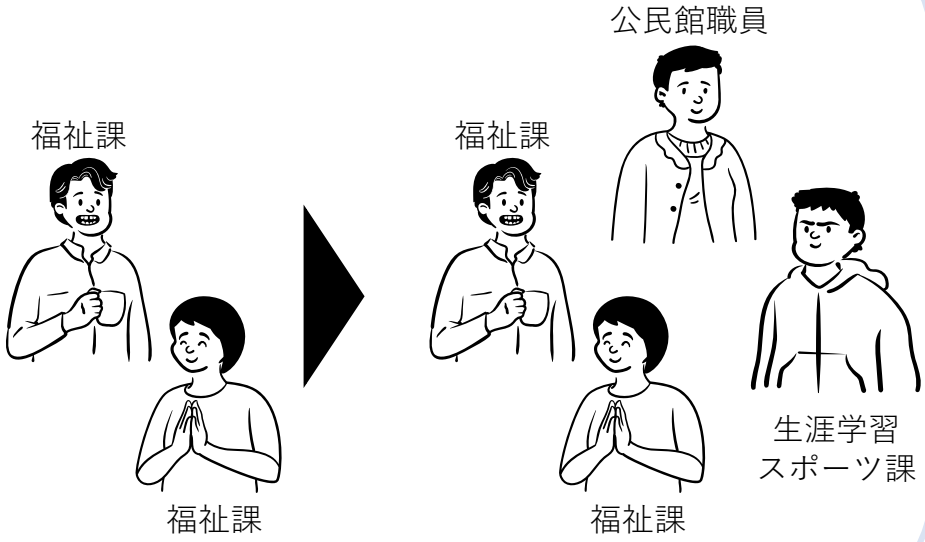
関係者の広げ方のヒント

手引きp.28
参照

- **最初から巻き込むも良し、徐々に広げるも良し**
- **地域にあった方法で、関係者を広げていく**

**初期段階から
分野横断的な点検体制を構築**

**担当課から始めて、
徐々に関係者へ広げていく**



Copyright (C) 2023 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

本ツールによる視点ごとの点検の流れ（再掲）

本ツールを利用した点検の流れは以下の通り。
点検ツール本体は、以下の流れに沿って、担当者や庁内関係者がそれぞれ検討結果を記入・共有できるような形式となっている。

1 視点に関する現在の取り組みの洗い出し
- この視点に関する現在実施している取り組みを洗い出す

2 視点に関連した目指す姿の振り返り
- この視点に関して、既存の（上位）計画で位置付けられている目指す姿を振り返る

3 目指す姿の実現状況の仮評価
- 目指す姿の実現に向けた、現時点での実現状況を「仮評価」する

  - これまでの結果、地域の強み
  - 実現できていない要因の検討

4 解決すべき要因の検討（仮の絞り込み）
- 目指す姿に向けてさらに推進するうえで解決すべき要因（仮説）を検討し、列記する

5 知りたいことの洗い出し、利用可能な情報の収集・整理
- まずは知りたいことを洗い出し、さらに利用可能な情報を収集・整理

6 確認結果を踏まえた今後の取り組みの検討
- 上記の確認結果を踏まえ、施策の展開をより効果的なものとするための工夫や見直しをまとめる

  - 取り組みをさらに良くするための工夫
    （事業の組み立ての見直し、事業実施方法の工夫など）
  - 庁内連携や情報の収集・活用など体制等の改善方策

関係者とともに適宜、3～5を繰り返す

➡ **次の施策の検討に反映・活用**

Copyright (C) 2023 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

点検ツール　使い方

1. 視点に関する現在の取り組みの洗い出し

〈効果的な施策を展開するための考え方の点検ツール〉社会参加・介護予防

【この視点の位置づけ】

地域のビジョン（理想の姿）：高齢者個人が尊厳を保持し、かつ個人の能力に応じ自立した日常生活の維持・継続できる社会の実現

└政策レベルの視点（大項目）：住民が希望する、住み慣れた地域・居宅での生活を継続できている

└政策レベルの視点（中項目）：要介護状態等となることの予防等を図りつつ、住民や多様な主体が関わって地域の資源が整備・維持・活用されている

└施策・事業レベルでの機能性を点検する視点：**多くの住民が自分の強みや興味・関心に沿った社会参加の機会を得て、結果的に健康増進や介護予防につながっている**

【この視点の概要】

地域に暮らす高齢者が
充実が大切です。
高齢者の強みや興
現在の課題とそれ

この視点に関連しそうな、現在実施している取り組みを書き出す

左の欄に書いた取り組みのねらいを書き出す

目標値など指標を設定していれば記載
※なければ空欄でOK

【点検項目】

1．この視点に

・初めに、この視点に関して　ような取り組みを行っているかを書きましょう。関連する取り　るだけ多く挙げましょう。

・次に、それらの取り組み　って現状がどう変わると期待していたかを書きましょう。（人の行動　考え方が変わる、体制・制度が充実するなど）

取り組みの目的と内容	左記の取り組みによって現状がどう変わることを期待したか	（もしあれば）左記の取り組みを評価する指標として定めたもの
（記入例） • 様々な分野のNPO やボランティア団体による活動紹介イベント開催 • 虚弱高齢者が参加しやすい活動への助成	（記入例） • 高齢者が自分の関心に合った活動を見つけやすくなる • 虚弱高齢者が外出する意欲が高まったり、外出機会を得やすくなったりする	（記入例） • 活動紹介イベント開催を評価する指標：高齢者の地域活動への参加状況 • 虚弱高齢者が参加しやすい活動への助成を評価する指標：虚弱高齢者の外出頻度

Copyright (C) 2023 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

2. 視点に関連した目指す姿の振り返り

2．この視点について、目指す姿がどのようなものかを振り返る

・自分たちの地域では、住民の社会参加・介護予防についてどのような姿を目指しているかを、具体的に記載してください。
・例えば、総合戦略や介護保険事業計画等ではどのように表現しているか確認してみましょう。

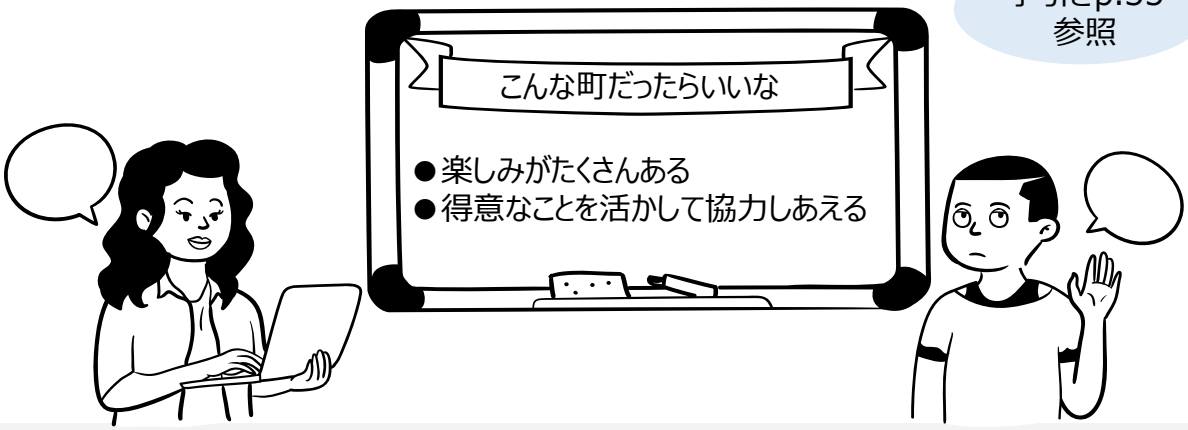
（記入例）
- 高齢者が地域でつながりを持ちながら、元気で暮らし続けられる

どのような「目指す姿」を掲げているかを探し、書き出す
※介護保険事業計画だけでなく、地域福祉計画等の関連する計画や長期ビジョンや基本構想、総合計画（総合戦略）なども参照してみる
※計画には位置付けていないが、関係者の間で実質的に合意・共有されているものがあればそれを書いても良い

目指す姿を言語化する際のヒント

- **各人の思いを言葉にしてみる**
- **参加者同士で議論する**
- **社協などの関係機関と意見交換する**

手引きp.35
参照



Copyright (C) 2023 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

3. 目指す姿の実現状況の仮評価

あくまで「仮」で良いので目指す姿の実現状況を選ぶ

この視点に関連して、これまでの取り組みで得られた結果や成果、地域の“強み”（地域資源）を洗い出して記載する

3．目指す姿の実現状況を仮で評価する

・２で書いたことが現時点でどの程度実現できているか、これ　　成果および現状との乖離の要因は何か、仮の評価をしてみましょう。※ここではあくまでも「仮の評価」で構いません

（1）目指す姿の実現状況（以下から一つを選択）

- ○ 概ね実現できている　・・・目指す姿を具体的に共有し、成果も現れている
- ○ なかば実現できている　・・・目指す姿は共有できているが、成果が現れるのはこれからである
- ○ あまり実現できていない　・・・取り組みはあるが、目指す姿を共有できていない
- ○ ほとんど実現できていない・・・これから目指す姿や取り組みを具体化していく

（2）これまでの成果（特にこれからの取り組みに活用できる強みを書き出してみましょう）
例えば、この視点に関連する地域の強み、これまでに培われた地域資源を洗い出してください

（記入例）
- これまでの取り組みを通じて関係者同士がつながりを持っている
- 取り組みに積極的な住民、団体・機関、地域を知っている
- 農作業のような日課を持っている住民が多い地域がある

（3）まだ実現できていない部分について、なぜ、乖離が生じているのでしょうか？
要因として考えられるものを挙げてみましょう

〈解説〉要因の例

右の欄に書いた”強み“も踏まえつつ、上の欄で選択した実現状況をさらに高めていくために解決すべき要因を考えて、書き出す
※「要因の例」の解説も参照

振り返りのヒント

●「できなかったこと」だけでなく、「できたこと」をしっかりと書き出す

手引きp.37参照

Copyright (C) 2023 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

3. 目指す姿の実現状況の仮評価

〈点検ツール解説〉社会参加・介護予防

〔解説〕要因の例　シートに戻る←

・目指す姿に近づく上で、「ここが障壁になっているかもしれない」と思いつくことを挙げてみましょう。誰のどういった状況が障壁になっていそうかを具体的に考えると良いでしょう。これらをヒントにしながら自分たちの地域に引き寄せて考えましょう。

（記入例）

住民：
- 社会参加が健康増進や介護予防につながることを意識していない
- 関心に合った地域の活動を知って参画するきっかけが少ない

地域の多様な活動主体：
- 高齢者がフレイル等で参加・就労を諦めるのは仕方ないと思い込んでいる

生活支援コーディネーターや専門職：
- インフォーマルや民間サービスなどの地域資源を詳しく知らない

体制・制度：
- 地域の様々な活動について関係部署で共有しきれていない

誰にとっての要因か、視点をヒントにして各地域での要因の洗い出しを進める

Copyright (C) 2023 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

4. 解決すべき要因の検討（仮の絞り込み）

4．解決すべきと考えられる要因を選ぶ

・３で挙げた複数の要因の中から、とくに「解決すべきと考えられる要因」として重要と考えられるものを絞り込んでみましょう。
※まずは仮説で良いので「仮の絞り込み」を行い、後の項目５で関連する情報を集めて確認したのちに、さらに加筆修正してください。

〈解説〉
要因の検討や
絞り込みの
参考となる情報

前の項目で洗い出した要因のなかから、特に解決すべきと考えられる要因を選ぶ
※ここでは一旦、「仮の絞り込み」で良い
※このあと、関連する情報やデータを集めて検討してから、改めて検討して要因を再整理する

Copyright (C) 2023 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

4. 解決すべき要因の検討（仮の絞り込み）

〔解説〕解決すべきと考えられる要因を選ぶ

シートに戻る←

・ここでは、３で選んだ複数の要因の中から、とくに「解決すべきと考えられる要因」として重要と考えられるものを絞り込んでみましょう。
・まずは仮説で良いので「仮の絞り込み」を行い、後の項目５で関連する情報を集めて確認したのちに、さらに加筆修正してください。

（記入例）
- 趣味サークルに関心があっても、「もう年だから」と諦めてしまう人が多い
- 通いの場を自分たちで作ろうと思う人が少ない
- 退職した人が地域活動に関わる機会を得にくい

これはあくまでも例示だが、誰にとっての要因が特に重要なのかを検討して記載する
※この視点での検討の手掛かりとして、参考文献も活用

・なお、複数の要因を整理したり、多くある要因から特に解決すべきと考えられる要因を絞り込むにあたっては、以下の文献も参考となります。これらも参考にしてご検討ください。
（下記資料のリンク先は、各文献が掲載されている外部サイトに移ります）

- ☐ 介護予防の取組強化・推進のための市町村マニュアル（令和4年3月）（厚生労働省委託事業（令和３年度介護予防活動普及展開事業））
- ☐ 介護予防マニュアル第４版

Copyright (C) 2023 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

5. 知りたいことの洗い出し、利用可能な情報の収集・整理

5．知りたいことを挙げ、情報を集める

・まず、１～４に挙げた事項に関して「知りたいこと」を挙げましょう。　※この段階ではその情報を入手したり利用したりできるかの可能性は一旦考えずに書き出してください。
・次に「知りたいこと」について、可能な範囲で情報を集め、関係者とともに分析・議論を行いましょう。

（1）１～４に挙げた事項に関して「知りたいこと」を挙げましょう
※この段階ではその情報の利用可能性は一旦考えずに書き出しましょう。

⇒（1）の入力欄を表示

（2）「知りたいこと」について、可能な範囲で情報を集め、関係者とともに分析・議論を行いましょう。
※ここで活用できる情報の例については、入力欄の参考情報を参照ください。

⇒（2）の入力欄を表示

5．（1)知りたいことを挙げる

・１～４に挙げた事項に関して知りたいことを挙げてみましょう。
※この段階ではその情報の利用可能性は一旦考えずに書き出しましょう。

情報やデータが利用可能かに捉われず、ひとまず「知りたいこと」を挙げる

5（1)①目指す姿の実現状況に関連して知りたいことは何ですか？

No.	「目指す姿の実現状況」に関連して知りたいこと
1	（記入例） • 健康寿命はどのように推移しているか • 地域活動に参加する人は増えているか
2	
3	
4	

Copyright (C) 2023 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

5. 知りたいことの洗い出し、利用可能な情報の収集・整理

5（1）②取り組みで期待したことやこれまでの成果、強みに関連して知りたいことは何ですか？

No.	「期待したこと」や「成果、強み」に関連して知りたいこと
1	
2	（記入例）
3	• 地域活動への参加促進を通じて、どんな人が新たに活動に参加し、その中に虚弱高齢者はどのくらい含まれるか
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	

情報やデータが利用可能かに捉われず、ひとまず「知りたいこと」を挙げる

5（1）③解決すべきと考えられる要因に関連して知りたいことは何ですか？

No.	「解決すべきと考えられる要因」に関連して知りたいこと
1	（記入例）
2	• 高齢者が地域の活動に参加しなくなる理由
3	• 退職者がどういう暮らしをしているか
4	• 住民は社会参加を通じた健康増進や介護予防の必要性をどの程度理解しているか
5	
6	

Copyright (C) 2023 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

5. 知りたいことの洗い出し、利用可能な情報の収集・整理

5．（2）関係者とともに「知りたいこと」を確認する

・5．（1）で挙げた「知りたいこと」について、情報・データの収集・分析や、関係者との議論を行いましょう。

5（2）①参考となる情報やデータ（収集結果）とまとめ

No.	「目指す姿の達成状況」に関連する情報やデータ
1	（記入例） • 老人クラブの会員数は減少傾向だが、趣味やスポーツの団体に参加する人は増えており、嗜好やライフスタイルが多様化している。
2	
3	
4	

〈解説〉活用可能な情報やデータについて

5（2）②情報やデータを踏まえて分かったこととまとめ

No.	「期待したこと」や「成果、強み」に関連する情報やデータ
1	（記入例） • スマホ教室に参加した人がオンラインでの交流を楽しむようになった
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	

5（2）③情報やデータを踏まえて分かったこととまとめ

No.	「解決すべきと考えられる要因」に関連する情報やデータ
1	（記入例） • トイレの不安が大きくなると外出や活動参加を 控える傾向が強い • 春先の怪我で農業を辞める80 代が多い
2	
3	
4	
5	
6	

「知りたいこと」に関連する情報やデータを可能な範囲で集め、分かったことをまとめる

Copyright (C) 2023 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

5. 知りたいことの洗い出し、利用可能な情報の収集・整理

〔解説〕活用可能な情報やデータ

シートに戻る←

・この視点での「目指す姿の達成状況」や「成果、強み」あるいは「解決すべきと考えられる要因」状況について、活用可能な情報やデータを例示します。
・これらをヒントにしながら、各地域で独自に把握している情報やデータも踏まえ、自分たちの地域に引き寄せて「知りたいことを挙げる」で洗い出した項目の検討に使える情報やデータを考えてみましょう。

指標（例）	定義	出所
地域での活動への参加状況	65 歳以上の方のうち地域での活動（ボランティアのグループ、スポーツ関係のグループやクラブ、趣味関係のグループ、学習・教養サークル、介護予防のための通いの場、老人クラブ、町内会・自治会、収入のある仕事）に 1 つ以上参加している人の割合	地域での活動への参加状況：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
要介護リスクの高い高齢者の割合	65 歳以上の方のうち要支援 1・2 の認定者及び「基本チェックリスト」で事業対象者と判断された人の割合	・認定者数：介護保険事業状況報告 ・「基本チェックリスト」で事業対象者と判断された人　※「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」結果を活用

既存の指標やデータ等で、この視点に関連して使える可能性のあるものを例示

ここにある指標やデータに限らず、各地域（あるいは各課）で独自に把握している情報・データも参照

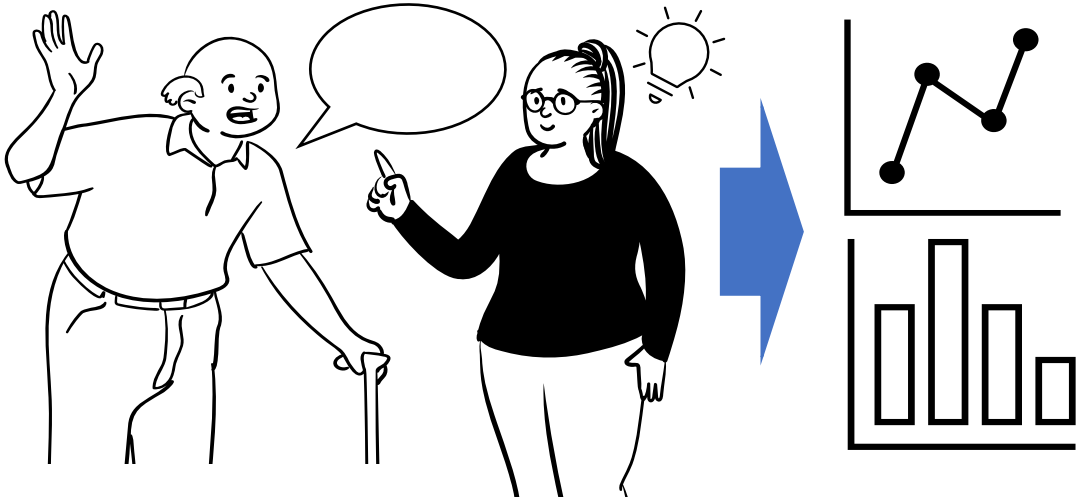
Copyright (C) 2023 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

情報の収集・整理のヒント

手引きp.42
参照

- **関係者の声を基に、大まかな状況・方向感を掴んだうえで、分析の精度を高める**
- **定性情報にも有用な示唆が含まれているためデータの有無にとらわれ過ぎない**
- **関係者に目的・意図を伝えることで、新たなデータを引き出すことも可能に！**

定性と定量の組み合わせ



まずは、大まかな方向感を掴む

次に、データを用いて
分析の精度を高める

知りたいことによって活用データは異なる

キーワード
「健康」

「できるだけ長く健康でいる」
健康データ

「健康を保ちたいという
意欲を持っている」
健康意識調査の結果

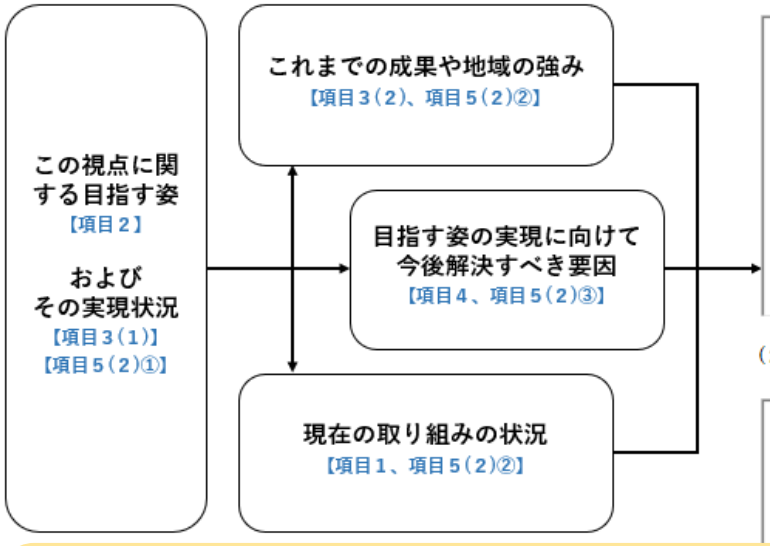
Copyright (C) 2023 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

6. 確認結果を踏まえた今後の取り組みの検討

取り組み結果を踏まえ、この視点において「目指す姿」により効果的に近づくための施策・事業の工夫や改善方策を検討する

6．確認結果を踏まえて取り組みの改善策を考える

・５までに整理したことを踏まえ、目指す姿に向けてさらに近づいていくために、今後の取り組みで見直すべき点や工夫したい点を
・併せて、多職種連携、庁内外連携、情報の収集・活用など、この視点の取り組みを支え、他の施策等との連携を高める体制等につい
※本項目を検討するために必要があれば、項目１～５に戻ってさらに検討を深めてください。



（１）この視点に関する取り組みをさらに良くするための工夫・改善方策（総括）
※可能であれば、①事業の組み立ての見直し、②事業の実施方法や運営上の工夫、の２つの視点で整理しましょう。

（記入例）
- 高齢者の関心を把握して、団体とのマッチングを強化する。
- 助成の重点分野として「男性の虚弱高齢者向けの活動」を設定する。

（２）多職種連携、庁内外連携、情報の収集・活用など、この視点の取り組みを支え、他の施策等との連携を高める体制等についての改善方策（総括）

（記入例）
- 活動助成の仕組みや要件は、関連課合同での企画会議を開催して決める

この視点での検討と併せて、多職種連携や庁内外連携など、「体制」に関する工夫や改善方策も考えてみる

Copyright (C) 2023 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

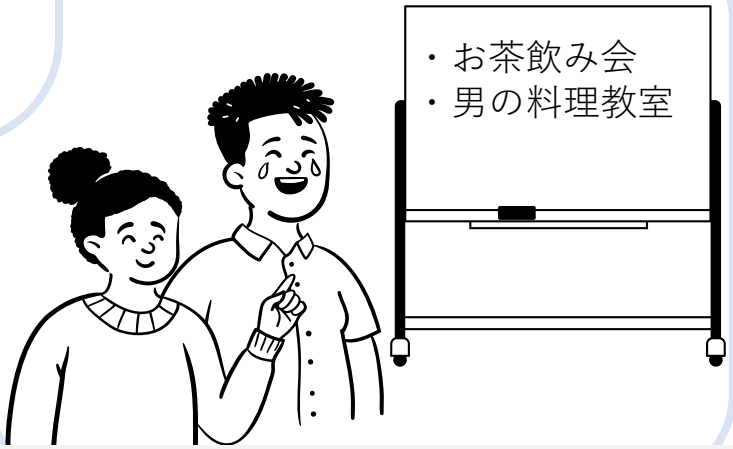
多職種連携、庁内外連携等の体制改善のヒント

手引きp.44
参照

取り組みに関わる関係者・関係機関の役割の整理

福祉部局以外との意見交換の場の設定

点検結果を念頭に置きつつ、既存会議や協議体でのアイデア出し



Copyright (C) 2023 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

6. 確認結果を踏まえた今後の取り組みの検討

効果的な施策を展開するための考え方の点検ツール　総括表

点検結果のまとめ〈総括表〉

施策・事業レベルでの機能性を点検する視点

- 多くの住民が自分の強みや興味・関心に沿った社会参加の機会を得て、結果的に健康増進や介護予防につながっている
- 高齢者がリハビリテーション等を活用しながらできる限り心身機能や生活行為の回復と維持を図っている
- 高齢者を含む地域住民が、認知症の視点も踏まえた地域共生社会の実現を進め、認知症の人の発信や意思決定・権利擁護が尊重されていると感じている
- 認知症があっても、その状況に応じた適時・適切な医療・ケア・介護サービスを利用でき、生活を継続できている
- 高齢者が、急変時を含め、入退院があっても切れ目のないケアを利用でき、生活を継続している
- 本人の希望に応じた日常療養から看取りまでの体制を整え、提供できている
- 高齢期の住まいや移動を支える資源の整備・活用に向けた取り組みが実施されている
- 高齢者や家族が、望む暮らしに合った介護サービスや生活支援を利用でき、生活を継続している

各視点での目指す姿の実現状況および取り組みの成果	今後解決すべき要因（課題）	取り組みの改善策（総括）

各視点で検討した結果を踏まえ、点検結果の総括をまとめて記載する

規範的統合　**庁内外の連携は十分に機能しているか？**

- 自治体を中心に、地域包括支援センターや地域の関係機関が連携し、分野横断的なマネジメントが実施できている

組織の機能を高める各領域共通の視点

- 地域のビジョンおよび各施策が目指す姿の実現のために多職種が連携して取り組んでいる
- 庁内外の関係部局・機関で地域のビジョンおよび各施策が目指す姿や課題を具体的に共有して事業等を推進している
- 庁内外の関係者が課題や成果を客観的に共有できるよう情報を収集・活用できている

多職種連携、庁内外連携、情報の収集・活用など、この視点の取り組みを支え、他の施策等との連携を高める上での改善方策（総括）

（再掲）点検の実施手順（例）

モデル事業での実施結果を踏まえると、本ツールを活用した点検の実施手順（例）として、
以下のような進め方が考えられる。
なお、小規模な自治体では、本ツールが示す視点の一部だけを利用した点検も有効である。

1 点検の体制づくりとねらいの共有

- 誰が主担当となって、どのような体制で点検を実施するかを定める
- 関係課をまたがる検討体制とする場合は、事前準備として、自地域における地域包括ケアシステムの構築状況など、これまでの経緯や現状の認識を共有しておくことも有効である

2 点検の枠組みと視点の確認

- 点検を実施するメンバーで、枠組みと点検の概要・関係性を確認する

3 施策レベルの視点の点検

- 点検ツールを活用して、主担当を中心に、目指す姿およびその実現状況の仮評価を実施する
- 仮の評価であるこの段階から、可能な範囲で庁内外関係者も交えて検討を進めることも有効である
- 仮の現状分析結果にもとづき、知りたいことを洗い出し、利用可能な情報を収集・整理する
- 「地域包括ケアシステム見える化システム」等のデータに加え、庁内関係各課が独自に把握・収集している情報も活用する
- 収集した情報を整理・分析し、目指す姿の実現に向けて、さらに効果的に施策を展開していくうえで次に解決すべき要因を検討・検証する　※必要に応じて、追加の情報収集を実施する

4 点検結果の総括

- 情報の分析・検討結果までを踏まえ、施策の展開をさらに効果的なものとしていくために、今後さらに取り組みうる工夫（事業の組み立ての見直し、事業運営方法の工夫等）を整理する
- 加えて、庁内連携や情報（データ）の活用など、複数の視点に横断的に関わるような庁内体制についての改善方策についても整理する

展開

次期計画等に向けた反映

- 検討結果を庁内の関係者や、次期計画策定の検討にも共有・報告し、次の施策等の検討に役立てる

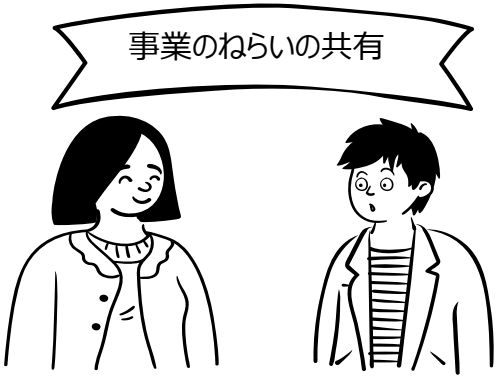
Copyright (C) 2023 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

次期計画等に向けた反映のヒント

手引きp.47
参照

キーパーソンのつながりの維持・引継ぎ

- 点検結果を引継ぎ資料として活用することで、各事業の位置づけが明確化
- 意見交換に参加したメンバー（キーパーソン）も併せて引き継ぐことが連携を継続するポイント



トップマネジメントへの報告機会を活用した連携体制づくり

- トップマネジメント（理事者、部局長等）に庁内連携の必要性・有効性を理解してもらうための説明資料として、点検結果を活用
- 首長や部長級向けに点検結果を報告し、トップマネジメントの協力姿勢を引き出す

次期計画等に向けた反映のヒント

手引きp.48
参照

●組織・個人の成熟段階に応じて、点検結果を踏まえた「次の一手」は異なる

成熟

【組織・個人の成熟段階（例）】		【次の一手（例）】
●施策・事業間の連動を推進する仕組みが運用され、継続的に改善されている		
●施策・事業が機能的に連動しやすくなるような仕組みが構築されている		
●関連する施策・事業どうしの連携・協力が始まっている	→	目指す姿をより具体化して共有
●事業の結果は表れているが、施策・事業に照らした位置づけの疑問も浮かび上がっている	→	目指す姿の実現に対する施策・事業の位置づけを改めて点検する
●事業の実践における効果がまだ表れていない	→	「そもそも何のための施策・事業」なのか気づく

Copyright (C) 2023 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

本事業に関連する情報は以下から入手できます。ご参照ください。

地域包括ケアシステム
～効果的な施策を展開するための考え方の点検ツール～

ウェブサイト
（日本総研HP内）

https://www.jri.co.jp/service/special/content11/corner113/chk_tool/

掲載内容

- 点検ツール
  - 点検ツール
  - 概要説明資料
  - 概要説明資料の解説動画
  - 点検の手引き
- 本点検ツールに関するこれまでの調査研究事業報告

本ツールは、厚生労働省令和4年度老人保健健康増進等事業の一環で作成したものです。

Copyright (C) 2023 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.